

市民との協働による『住みたいまち・行きたいまち』の実現を

平成19年第1回定例会(3月議会)で伊万里市の平成19年度予算が決まりました。一般会計予算の総額は197億8300万円となり、国の歳入歳出改革による地方交付税の減少などこれまで以上に厳しい財政運営を強いられる中、限られた財源の中で可能な限り市民福祉の向上と将来の伊万里市づくりにつながる事業へ重点がおかれた予算編成となっています。

第1回定例会での市長の所信表明と『5つの元気なまちづくり』を基本方針とした主な予算の内容を紹介します。

平成19年 第1回定例会 所信表明

はじめに

市政運営2期目のスタートの年となった昨年は、新たな企業の進出に加え、IC関連や造船など既存誘致企業の大規模な事業拡張が決定し、雇用の拡大と地域経済の浮揚に大きな期待が持てるようになりました。

一方、関係機関や団体が推進母体となった『食を活かしたまちづくり』や各町各地区での『子ども見守り隊』など市民協働、市民主体の取り組みに加えて、小中学生をはじめとする市民の各方面にわたる全国レベルの活躍など明るい話題も多く、将来の飛躍への大きな手ごたえを感じました。

このように、地域活性化の大きな原動力となる民間の経済活動を促進する取り組みに加えて、市民の積極的なまちづくり活動も着実に進展しており、わたしのマニフェストに掲げる元気な伊万里市づくりへ向けた確かな一歩を踏み出すことができました。

そうしたなか、新たに取り組んだ第4工業用水道事業や市民ニーズに的確に対応するための中核的病院の整備、広域連携によるごみ処理施設の建設など、市勢発展の新たな土台となる大きなプロジェクトが動き出したところです。

わたしは来る平成19年度を、足取

市政を取り巻く課題と当面するプロジェクト

本市においては、これまで積極的に取り組んできたインフラ整備に伴う起債償還をはじめ、プロジェクトへの投資や多様な住民サービスなど幅広い財政需要にいかに対応するかが大きな課題となっており、昨年見直しを行った第4次行政改革大綱および第2次財政健全化計画に沿ってこれまで以上に行財政改革に取り組むとともに、創意工夫を凝らしながら堅実な財政運営に努めていきます。

まず、未来志向型の伊万里市づくりというべき大きな視点から市政を見るとき、将来の発展に欠かすことのできない大型プロジェクトが今後何年かに集中しており、その実現に向けて積極的に取り組めます。なかでも、IC関連企業の大規模な事業拡張に伴う第4工業用水道事業については、雇用の拡

りも確かな『前進の年』と位置付け、引き続きこれらの重要プロジェクトを力強く推し進めながら、人も産業も活力にあふれる、元気な伊万里市づくりに向け全力を傾注し、私自身はもちろん職員一同『さわやか市政』の意識を新たにして市政運営にあたっていく覚悟です。

大や地域経済活性化に大きな効果が期待できることから取り組んでいるところであり、佐賀県との連携により着実に推進します。

また、事業費用については、その負担が将来にわたり市政運営の妨げとならないよう、佐賀県や国などに対して財政支援を強く要望していきます。中核的病院の整備に関しましては、伊万里・有田地区の公的病院の統合に向けた準備室を設けたところであり、有田町との間で建設場所を含めた整備構想などについて鋭意協議を進めます。

伊万里湾開発における七ツ島工業団地のマイナス13メートル岸壁の整備、あるいは西九州自動車道をはじめ、国道202号線、国道204号線、国道498号大坪バイパス、県道伊万里山内線、県道黒川松島線、幹線道路網も着々と整備が進みつつあり、地域振興に大きな効果をもたらすこれらの事業の早期完成をめざし、国や佐賀県に対してなお一層働きかけを強めていきます。

元気な伊万里市づくりへ



安心・安全の確保へ向けて

昨秋の集中豪雨被害では、想像をはるかに超える自然の恐ろしさとともに、万々に備えた災害に強いまちづくりの重要性を痛感させられました。被災した施設の一刻も早い復旧と被災農業者の復興支援に取り組むとともに、7月9日を『市民防災の日』と定め、市民一人ひとりの防

災意識の高揚を図りながら、防災パトロールの実施や災害情報の円滑な収集伝達など防災対策の充実に努めるとともに、市民の皆さんに利用していただく公共施設については、毎月の点検実施により十分な安全確保に努めるほか、交通事故の減少や火災事故の防止に向けた地道な取り組みを継続して進めていきます。

このところ、子どもたちをめぐる

新入生代表にランドセルカバーを贈呈
(立花小学校入学式 4月10日)



伊万里市長 塚部 芳和

5つの元気なまちづくり

- 1 歴史や伝統文化、特産品など地域の宝を生かした元気なまち
- 2 地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一の健康長寿の元気なまち
- 3 企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大と生き生きと働ける元気なまち
- 4 教育・福祉の充実と子育て支援による安心して子どもを産み育てる元気なまち
- 5 活力ある農林水産業の育成と商業を中心とする中心市街地が輝く元気なまち

事件や犯罪があとを絶たないことに深い悲しみと激しい憤りを感じます。本市では各地区において『子ども見守り隊』の活動や防犯パトロールなどが定着し、着実に効果をあげてきており、引き続き、子どもたちを危

険から守る地域の取り組みを推進していきます。

『住みたいまち・行きたいまち』への思い

市民アンケート調査によると、市民が最も期待する『住みたいまち』は、働く場に恵まれ産業経済活動が活発なまちであります。このため企業の活発な設備投資や雇用拡大を促進するとともに、農業や商業をはじめとした地場産業の活動が円滑に行われるよう支援を行い、だれもが安定した生活を送ることができるまちづくりに取り組んでいきます。

また、外部の人にとっても魅力のある『行きたいまち』をめざし、長い歴史と伝統を誇る焼き物や古伊万里ゆかりの文化、豊かな自然から生み出される恵まれた食材や食文化など、地域固有の資源を活かしたまちづくりに取り組むとともに、今後は若年勤労者や団塊の世代などの市外からの転入による定住促進を積極的に進めます。

このように様々な分野において、伊万里市の元気づくりに努めるとともに市民との協働を基調として、行政の普遍の目標である『住みたいまち・行きたいまち』の実現に向け、たゆみない努力を惜しまない覚悟です。

次ページからは、以上の基本的な考えのもと、マニフェストに掲げた『5つの元気なまちづくり』の基本方針に基づいて取り組む主な施策について説明します。